

富士市中小企業景況調査結果

令和5年度 第4四半期【令和6年1月～3月】

令和6年4月
富士商工会議所調べ

◇ 調査実施要領 ◇

富士市内中小企業の景気動向と経営状況について調査を実施した。
製造・建設・卸売・小売・サービス業の5産業、206事業所(回収率66.0%)を対象に、「令和6年1月～3月」の3ヶ月間の生産・売上および経営状況の調査を行い、その結果を産業別にまとめた。

DI(景気動向指数)とは

『上昇・増加・好転』したとする企業割合から、
『下降・減少・悪化』したとする企業割合を差し引いた値。

前期…令和5年10月～12月 今期…令和6年1月～3月 来期…令和6年4月～6月

表中の矢印=5ポイント以上の推移を上下矢印で、5ポイント未満は横ばい矢印で表示した

◇ 今期調査の概況 ◇

前期・今期と比べたDI値の動き			↗改善	→横ばい	↘悪化
主要DI	前回調査		今期調査 (前年同期)		来期予測
業況	▲11.3	→	▲8.9 (▲19.4)	↘	▲14.0
売上	6.5	→	6.6 (7.1)	↘	0.0
採算	▲20.2	→	▲16.3 (▲40.3)	↘	▲22.8

今期調査では、全産業合計の業況DIが+2.4ポイントの改善、売上DI+0.1ポイントの改善、採算DI+3.9ポイントの改善となった。来期の予測については、業況・売上・採算DIいずれも悪化の予想となった。業種別の来期業況DIは、製造業・建設業で上昇、卸売業・小売業・サービス業で下降を予想。売上DIは、製造業・建設業で上昇、卸売業・小売業・サービス業で下降を予想。採算DIは、建設業で上昇、製造業・小売業で横ばい、卸売業・サービス業で下降を予想。

全体を通して、売上は改善傾向であるという声が多かった。トラックドライバーの2024年問題への対応、人手流出を防ぐために賃金アップや労務環境を見直していかなければならないなど、働き方に関する課題に取り組んでいきたいという声が多かった。

経営上の問題点では、「商品、原材料仕入れ価格の上昇」が5業種全てで1位となった。なお、建設業で「設備老朽化」が、小売業で「販売価格値上げ難」が同ポイントで同列1位となった。

◇ 全産業の動き ◇

〔業況のDI〕 小売業・サービス業は上昇、建設業・卸売業は横ばい、製造業は下降。

来期予測は、製造業・建設業で上昇、卸売業・小売業・サービス業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	8.4	↘	▲22.5 (▲26.5)	↗	▲17.5
建設業	▲15.4	→	▲14.8 (▲19.2)	↗	▲7.4
卸売業	▲10.5	→	▲10.6 (▲8.7)	↘	▲21.0
小売業	▲44.5	↗	▲6.3 (▲20.0)	↘	▲35.3
サービス業	▲12.0	↗	12.5 (▲19.2)	↘	0.0
全産業	▲11.3	→	▲8.9 (▲19.4)	↘	▲14.0

〔売上高のDI〕 建設業・小売業・サービス業は上昇、製造業・卸売業は下降。

来期予測は、建設業で上昇、製造業で横ばい、卸売業・小売業・サービス業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	13.9	↘	0.0 (▲14.7)	→	2.5
建設業	▲11.6	↗	▲3.7 (▲19.2)	↗	3.7
卸売業	15.8	↘	10.0 (23.9)	↘	5.0
小売業	▲11.1	↗	0.0 (30.0)	↘	▲22.2
サービス業	20.0	↗	25.8 (29.7)	↘	3.2
全産業	6.5	→	6.6 (7.1)	↘	0.0

〔採算のDI〕 小売業・サービス業は上昇、建設業・卸売業は横ばい、製造業は下降。

来期予測は、建設業で上昇、製造業・小売業で横ばい、卸売業・サービス業で下降を予想。

業種	前期		今期(前年同期)		来期予測
製造業	▲8.4	↘	▲25.0 (▲61.7)	→	▲25.0
建設業	▲30.8	→	▲29.6 (▲42.3)	↗	▲18.5
卸売業	▲15.8	→	▲20.0 (▲21.7)	↘	▲26.3
小売業	▲55.5	↗	▲29.4 (▲40.0)	→	▲33.3
サービス業	▲4.0	↗	16.1 (▲27.0)	↘	▲15.6
全産業	▲20.2	→	▲16.3 (▲40.3)	↘	▲22.8

◇ 産業別の動き ◇

※コメントは回答に基づき要約しています。

【製造業】 景気ムード…【低調】

『製紙・紙加工』…「販売単価の上昇で売上高は前期を上回る見込みである」「燃料、原材料の高騰は取引先の理解をいただき、値上げ対応は出来ている。繁閑の差はあるが、平均すると売上は每期同水準で推移している」「原材料価格の増加分を製品販売価格で補完できればよい」「物価高により一部商品で買い控えが生じ、生産量が減少しているものがある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「古紙価格の高止まりなど、調達する資材のコストアップに加え燃料費や輸送費などの上昇が予想されおり、経営環境は一段と厳しくなる。合理化や経費節減、原価改善に務めつつ、上昇コストの価格転嫁が急務である」「今期と同水準で売上も利益も推移する見込みである」「二次、三次の値上げを打ち出しているが、ユーザーに納得してもらえれば業界としては一息つける」「メーカーの一部が、物流 2024 年問題や人件費高騰を背景に値上げを発表した。三度目の価格改定で価格転嫁は大変困難だと予想される。さらに、政府の賃上げ要請で人件費がかさみ、業績は悪化見込み」とのコメントが寄せられた。

『金属加工』…「工作機械関係の動きが悪い」「自動車部品は多少の増加しかなく、伸び悩んでいる。工作機械部品等は低調ではあるが、徐々に回復に向かうと思う。4 月以降に期待している」「一般機械の需要減が続いている」「仕事量は上昇傾向だが、2026 年以降に電気自動車が増えると構成部品点数が半減してしまう。リーマンショックのような、EV ショックの不景気が起きる可能性がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「先のことはわからない」「来期についても、減産予告がされている」「今年と来年は、仕事量が増える傾向にある予想。2026 年以降は、電気自動車の影響で不透明な時代となる」とのコメントが寄せられた。

『金型部品』…「明るい兆しは無い」「金型業界は全体的に需要が減る一方である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「夏頃から好転に向かう予測」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「大手メーカーの好景気が下請け企業まで浸透していけば、かなり景気は良くなる。現状のままでは大手に消費され搾取されていく感じが否めない」「メーカーの発注キャンセルにより元受けの仕事量が一時的に激減している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「生産等は問題なく右肩上がりであろう」「遅れた発注が後発の発注と重なる為、来期はキャパ以上の仕事量になる」とのコメントが寄せられた。

『機械器具』…「親会社の外資化により、輸出製品の生産拠点再編があり、生産数が減少している」「自動車業界に関しては、一部メーカーで販売開始予定の車種が昨年比べて多い為、その車を生産する為の設備費用が増加すると見込んでいる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「各業種において勝ち組負け組が鮮明になってきているように感じる。しっかりアンテナを張って勝ち組企業と取引をしていく事が出来れば、見通しは良好と考える」とのコメントが寄せられた。

『電子機器』…「過当競争で、値上げは困難である。業界再編が必要なレベルだと感じている。新製品開発・新技術開発・新市場開拓が必須だが、事業承継時の借入負担が大きく、資本投下余力が少なくなった」とのコメントが寄せられた。

『衣料・繊維加工』…「能登半島地震で同業者が被災したことにより、一次的に製品不足が起きた。現在は正常に供給されている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「能登半島地震で被災した同業者の中で廃業する企業が出てくる」とのコメントが寄せられた。

『印刷』…「紙の値上がりで紙離れが増加し、売り上げが減少している。悪循環に陥っている」「印刷業界は衰退していく」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「先行き不安で広告宣伝費の抑制が続き、印刷業界は厳しい状況が続く」「印刷業界は良くないが、その中でもニッチな印刷物を増やしていく事が必要だ」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「原材料価格、物流費、光熱費、人件費は上昇する一方で、販売価格に転嫁できていない為、売上高は維持しても利益減となっている」「原材料価格の高騰が続いている」「円安により原料の仕入価格が上昇。販売先への値上げについては、コスト上昇分の全部を補うまでは認められない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「小売価格の値上げで購買意欲の減少につながり、売上高に影響を及ぼすことが不安である」「値上げをこまめにして、利益の確保に努める」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「紙の価格の上昇が止まらない。非常に困る」「富士市内には地域経済を牽引していくだけの業種・企業は存在しないが、近隣の富士宮には医療、静岡には自動車や食品などの業界のリーディングカンパニーがある。近隣市町の企業と繋がっていく事が重要だと考えている」「株価上昇の実態が全然見えてこない」「取引先大手の合併が進んでいるように思える。子会社を親会社が纏めるケースや同業者同士のものが多いように見受けられる。業務効率化や事務の効率化が目的ではないかと思われる」「富士川かりがね橋の開通で県道 396 号線はかなりスムーズになった」「人手不足が続いている」「一般的にはインフレと言われているが、個人的にはデフレ状態だと思う。街には、安売り店舗ばかりで、どの業界、製品、市場も、高付加価値共創ではなく、低価格競争をいまだにやっている」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期 D I	来期予測
業 況	12.5	52.5	35.0	▲22.5	上 昇
売上高	32.5	35.0	32.5	0.0	横ばい
採 算	7.5	60.0	32.5	▲25.0	横ばい

【建設業】 景気ムード…【低調】

『総合建設』…「海外情勢の変化による資材の高騰や、好景気のように見える世の中の動向が、全ての物価上昇に繋がっている。しかしながら顧客の事業計画等の予算はこれに追いつかず、建設会社は原価の圧縮を余儀なくされている。なかなか工事に見合う請負金額となっていないのが現状」「これまでの一定の売上高及び利益確保に貢献してきた公共工事の増加が見られない。利益幅の少ない民間工事の受注の取り合いで、ますます利益構造が悪化している」「過当競争の状況に変わりなし」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「今後企業の投資は増加するとは思いますが、物価の上昇とのバランスがうまくいかないかと二極化した状況になってくると思われる。受注工事も選択をして、効率のよい案件を優先していきたい。世情はまだまだ不安定なので、注意しながらの経営が必要と思われる」「燃料・資機材の高騰傾向が続き、売上が確保できても採算面での改善の見通しが立たない状況が続く」「働き方改革に伴う効率化の推進が必要。特に年長者の固定概念の意識改革から始めることが必要」とのコメントが寄せられた。

『建設関連』…「今期は、工事量の減少により出荷が激減し非常に厳しかった。来期の前半は、それなりの物件が見え始めているので、今期と比較すると好転するだろう」とのコメントが寄せられた。

『建設車輛等賃貸業』…「官公庁の投資の需要は低迷している。民間はこれまで抑制してきたが、投資は回復基調にある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「官公庁の需要回復は当面厳しいだろう。民間の需要回復がどこまで継続できるかは不透明」とのコメントが寄せられた。

『一般住宅』…「コンパクトな平屋の需要が増え、顧客単価が低下している」「4月1日より新しい省エネの性能表示制度が始まる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「他府県からの移住が増え、建設業界もプラスの影響が出ると思われる」「販売価格の値上げをせざるを得ない状況ではある。一般住宅の販売では、値上げにより新築から選択肢を変更する動向が気になる」とのコメントが寄せられた。

『造園土木』…「12月末までは庭木の手入れで忙しかった」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「公共工事の発注がほとんどない」とのコメントが寄せられた。

『土木関連』…「変化はほとんど無い」「コンクリート砕石（建廃リサイクル）の需要低迷で、コンクリートガラ在庫が過剰となり受入れが出来ない状態が続いている。木くずチップはバイオマスの助燃材として需要があり、順調に推移している。解体工事は順調に受注出来ている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「中国の景気次第である」「建設土木の発注が低迷していて、あまり期待はできない」とのコメントが寄せられた。

『設備工事』…「値上げが難しい状況である」「大規模工事の減少と経費の増大に苦労している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては、「競争力の低下と過当競争で見通しは厳しい」「採算の悪いものより値上げを進める。数%の値上げを検討したい」「若い人材の不足により会社存続の不安がある」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「新富士インター周辺の造成が始まった」「2024年問題での労務管理負担がどこまで増えるか心配である」「手狭の事務所で、今後移転など検討する必要がある」「労務環境の働き方改革の実施が2024年4月より始まる。我々も実行していかななくてはならず、特に労働時間の短縮による業務への影響は今後課題となる。これによる物価の上昇も業界には大きな影響を与えると思う」「新卒の採用困難については、地方の建設業では企業努力だけでは解決できないレベルになっている。企業、行政、業界、商工会議所などが連携して、効果のある取り組みを真剣に考える必要がある」「ジャトコ依田橋寮の解体が始まっているが、パチンコの出店が決まっているようだ」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業況	11.1	63.0	25.9	▲14.8	上昇
売上高	11.1	74.1	14.8	▲3.7	上昇
採算	3.7	63.0	33.3	▲29.6	上昇

【卸売業】 景気ムード…【低調】

『機械器具』…「中国経済の低迷の影響が心配。円安の恩恵を受けない企業は更に厳しくなるのではないかと」「大手カーメーカーの生産停止等の影響を受け、納品が止まっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「今期は悪くはなかったが、4月以降は大きな受注・引き合いが少ない。好転する雰囲気を感じない」「あまり良い話は聞かない」とのコメントが寄せられた。

『自動車部品』…「物価高のため自動車の車検整備費用を抑えたいユーザーの声が大きい。半導体、電子部品の供給不足で新車の販売が遅れ、中古車の出回りが減っている。これらが原因で自動車整備部品の需要が落ち込んでいると推測される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「まだ当面の間、このまま推移すると思われる」とのコメントが寄せられた。

『金属部品』…「コロナ終息後は一定の業績回復が見られるが、取引先の顧客と販売製品によって業界では格差が広がっている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「仕入原価の上昇が続いており、価格転嫁が業績のカギを握っている」とのコメントが寄せられた。

『建築材料』…「建設業においても働き方改革が急務であるが、人手不足の中どう対応したらよいか頭を悩ませている」「ウッドショックより木材価格は大幅に減少されたが、サプライヤーの供給が低下して、日本向け材料が減少している。今年後半には木材が不足する可能性がある」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「人件費の高騰が利益を圧迫することが考えられるが、急激な物価高を踏まえ、給与については対応していかなければならない」「運送業、建設業の残業問題が、今後に影響してくるだろう」「2025年4月より建築基準法改正により4号特例縮小により、新築着工が大幅に減少することが予測される」とのコメントが寄せられた。

『製紙原料』…「紙の業界の停滞傾向、加工業者の高齢化、事業継続の問題等により、廃業する会社が3月以降多くなる」「製紙原料の減少が不安。製紙会社の生産調整など厳しい状況」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「事業内容の見直しで、雇用も急速に変化する」「古紙の減少が続いており、経営を見直し、企業の存続につなげたい」とのコメントが寄せられた。

『紙』…「需要は低迷傾向であるが、春先から回復を期待してくだらう」とのコメントが寄せられた。

『再生資源』…「中国の不動産不況により、余剰になった建設用鉄鋼製品が安価で諸外国に輸出され、製品鉄スクラップの値崩れしている。為替の影響により米国の金利上げの含みで銅の建値が下がり、非鉄スクラップ相場が下げ基調である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「ウクライナ、ガザの停戦を見据えた復興事業、インフラ設備の鉄鋼、電線等の銅製品の製造を検討している」とのコメントが寄せられた。

『工業薬品』…「得意先が人手不足により生産調整をしている」「新年度は大企業の賃上げが話題だが、中小零細では賃上げは厳しいと思う。コロナ前のように人流は元に戻っているので物流は比較的順調である」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「各製紙会社が値上げ出来るかが重要」「3月に入り値上げの通知が多くなり、4~5月以降には価格改訂せざるを得ない状況。2024年問題が現実化しそうである」とのコメントが寄せられた。

『食品』…「原材料高騰の為に価格改定で売上増となっているが、スーパーマーケットでの販売価格を見ても分かる通り、流通段階でダンピングの様な状況が見られ、利益を獲得するのに大企業の優位性が見られる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「状況を維持できるか否かで中小企業の存在価値が問われる5年間になると思う。M&A等の動き活発に行われていること、後継者が育っていない等中小企業を取り巻く環境は厳しい」とのコメントが寄せられた。

『事業共同組合』…「3月21日解禁となるシラス漁の好不漁により大きく変わってくる」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「3月に行われた県水産技術研究所による今年度のしらす漁海況予察によれば、今年もしらすは不漁の見込だとのことなので、当漁協にとっては暗い見通しである」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「インボイス制度導入後、振込手数料の負担が増えた。仕入先への振込は「振込手数料は支払い側負担の原則」を理由に弊社負担に変わり、得意先からは従来通り手数料

料を差し引かれて振り込まれる為、二重の負担となっている。腑に落ちない」「富士川かりがね橋の開通で車両増加により時間帯により朝の渋滞が増え、道の選択に迷う」「ヨーロッパからの輸入に関して、スエズ運河の問題で輸送が遅れ、コストが上がってきている」「水を多く使用する半導体製造産業を、湧き水量の多い富士市に誘致できるように官民一体になってやってもらいたい」「特に地域性の問題はない」「飲食店では、インド、ミャンマー、中国、ベトナム等の国籍の従事者が増加傾向にある」「従来の業務の見直しを行い、自社の本来の特徴や強みを生かす方向に進もうとする会社がみられる」とのコメントが寄せられた。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	10.5	68.4	21.1	▲10.6	下 降
売上高	35.0	40.0	25.0	10.0	下 降
採 算	10.0	60.0	30.0	▲20.0	下 降

〔小 売 業〕 景気ムード…【 低 調 】

『衣類』…「仕入値が上がっており販売価格を上げざるを得ないが、わずかな値上げでも抵抗される。値上げは難しい」「景況は底打ち感がある」とのコメントが寄せられた。

『各種食料品』…「自家消費を対象とした業態の店は変わらず忙しい。コロナで消沈していた観光関連の業者もようやく活況をみせてきている」「仕入れ価格も少しずつ落ち着いてきている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「春から初夏の動きに期待できる」「人件費の上昇を売上増で賄えるか心配」とのコメントが寄せられた。

『家電』…「暖冬による販売減、物価高の影響、新型コロナの5類移行により消費が減退し、家電の動きが鈍くなっている。省エネを強く訴求し顧客に提案していく」とのコメントが寄せられた。

『日用品・雑貨』…「現在、大きな値上げの動きはないが、今後、新製品が発売されるタイミングで値上げをすることが予想される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しについては「金属類の値上がり大きい。ネット販売等と比べられ、店頭価格を値上げしにくい状況」「店頭をクローズにする改装を実施する事になった。車の排気ガスで商品が汚れる事に悩まされていたが、これで解消できそうだ」「賃金の上昇が物価高に追いついてくれる事を期待したい」とのコメントが寄せられた。

『生花』…「生産量が減少している。要因として天候不順もあるが、生産人口の減少と生産現場での資材高騰の影響が大きい。資材資料の高騰が続く限り改善は難しい」とのコメントが寄せられた。

『飲料品・食品』…「依然、リーフ茶の消費は低迷。下げ止まり感がない」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「商店街の飲食店に変化がありつつある。活気を感じる」「吉原商店街の各店にアート作品が展示された。見学の人が街を歩き、店内まで足を運び商品にも目が止まり、いい傾向である」「富士地域に限らずどこへ行っても外国人観光客が多い。モラルがなく目を覆いたくなる事もあるが、郷に入っては郷に従えと日本のやり方を教育すべきであると感じる」「富士駅前再開発の情報が出回り、期待感が高まっている。同時に環境が変わって行く事に不安も感じている」「救急医療センター南にある「富士山夢の大橋」まで新富士駅から歩いて向かう外国人観光客が多く見られる。ここのロケーションの映像が

TikTok で相当数再生されているようだ。しっかりと整備すれば観光資源としてさらに生かす方法があるのではないか」「富士川かりがね橋の開通が明日に迫った。松野・岩本の再開発に期待する」とのコメントがあった。

	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	25.0	43.8	31.3	▲6.3	下 降
売上高	33.3	33.3	33.3	0.0	下 降
採 算	11.8	47.1	41.2	▲29.4	横ばい

〔サービス業〕 景気ムード…【 低 調 】

『クリーニング』…「毎年の売上減少が続く中、景気回復の兆しが見え始め、現在前年比100%で推移している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「売上が変わらないまま物価高の影響がさらに続く状況で、利益の圧迫が心配される」とのコメントが寄せられた。

『飲食』…「コロナ 5 類に移行された事で飲食店にも客が戻って来て、売上もコロナ前と変わらなくなってきた」「輸入品の値上がり幅が激しい。求人を出しても全くこない。特に学生の応募がない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「食材の値上げや2024年問題も含めて販売価格に反映する必要がある、売上を維持できるかどうか不安がある」「4月から仕入れ全般が値上がりするので 販売価格への転嫁が難しい」「コロナ禍に比べ、人の流れが良くなったが、会社利用の会食頻度は減っているように感じる。それぞれの商品に特徴を出し、選んで頂けるものをつくっていくのが大事。今までの安だけの商品ではなく、良いものにシフトチェンジしてコストパフォーマンスを良くすれば経営改善に繋げていけると考えている」とのコメントが寄せられた。

『運輸・倉庫』…「2024年問題の渦中ではあるが、比較的物流業界は繁忙している」「値上げ交渉中だが、なかなか難しい。同業者との競争もあり、強気にでると仕事を失いかねず、苦戦している」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「多少の値上げは受け入れて頂けるとは考えられるものの、トラック購入費用の上昇が半端なく、また、高速道路料金割引の変更、2024年問題による残業時間等の規制強化で見通しが立たない状況である。その様な状況にも拘わらず、従業員確保のための賃上げも負担である」とのコメントが寄せられた。

『自動車整備』…「業界の地位が低く、価格競争による単価の低さと原材料価格の高騰により、利益が減少している。若手の採用は困難な状況が続いている。人材不足で、生産性の向上は見込めない」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「厳しい状況は変わらない。仕入先の見直し及び人材の確保が最大の課題。非常に厳しい業界だと思う」とのコメントが寄せられた。

『求人広告』…「求人需要は増加しているが、競合他社が乱立しており、販売価格の低下が見られる」とのコメントが寄せられた。

『広告サービス』…「明るい景気には期待できない」とのコメントが寄せられた。

『専門サービス』…「過当競争であり、全体的に人手不足」「インボイス制度、電子帳簿保存法、二割特例など困惑状態である」「どの業種にも言えることだが、労働環境の整備と給与を上げないと人が雇えなくなっている。より一層二極化に拍車がかかると思われる」「許

認可申請、届出に関する需要が若干回復。ただし、オンライン申請や押印不要など、従来の書面申請からの転換は続いており、これらへのスムーズな対応が今後も求められる。」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「賃上げがテーマとなっていく」「定期的に法改正が行われ、それらへの対応が都度求められる業種からの依頼が以前より続いている。改正に伴う手続きが年々複雑化しており、対応するためのハードルが上がっている」とのコメントが寄せられた。

『観光バス』…「販売価格が上向いたのはとてもいい状況ではあるが、今後の需要の低下に繋がらないか懸念される」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「社会全体が人材不足の中、人材の確保が出来れば売上増加に繋がると思う。一方で人材確保する為に賃上げを実施せざるを得ず、経営を圧迫していくだろう」とのコメントが寄せられた。

『葬祭業』…「ドミナント戦略（一つの地域の中にチェーンの店舗を複数出店し、そのエリアをあたかも支配するように経営の優位性を確保する戦略）で出店ラッシュが続いている。低価格の過当競争が加速する」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては、「大手葬儀社が富士市に出店計画を打ち出している、競争が激化する見込み」とのコメントが寄せられた。

『不動産』…「一色地区の需要は良い。松岡地区は宅地造成分譲が多い」「不要な土地として処分を依頼されるケースが増えている。特に農地が多い。宅地は販売先も見つかりにくく流通が困難」「分譲地の供給過剰を感じる。同業者も土地が売れないと言っている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「岳南地域では社員の給与アップが少ないようで、土地の需要については依然低迷している。宅地造成費の工事費がかなりアップされたが、土地の販売価格は据置のままである。需要が少ないので販売価格に転嫁できず利益率は悪い。その分仲介業務に力を入れている」「株価が上がっても実感はない。顧客は中小零細企業に務める人が多く大企業とは異なるため、慎重な姿勢があり、物価高騰のイメージが強く不動産取引が活発化するか見通せない。正月に発生した能登半島地震もあり、防災対策の強い場所への期待は高まりそう」「自分が分譲地を造成販売しても売り切れないと感じる」とのコメントが寄せられた。

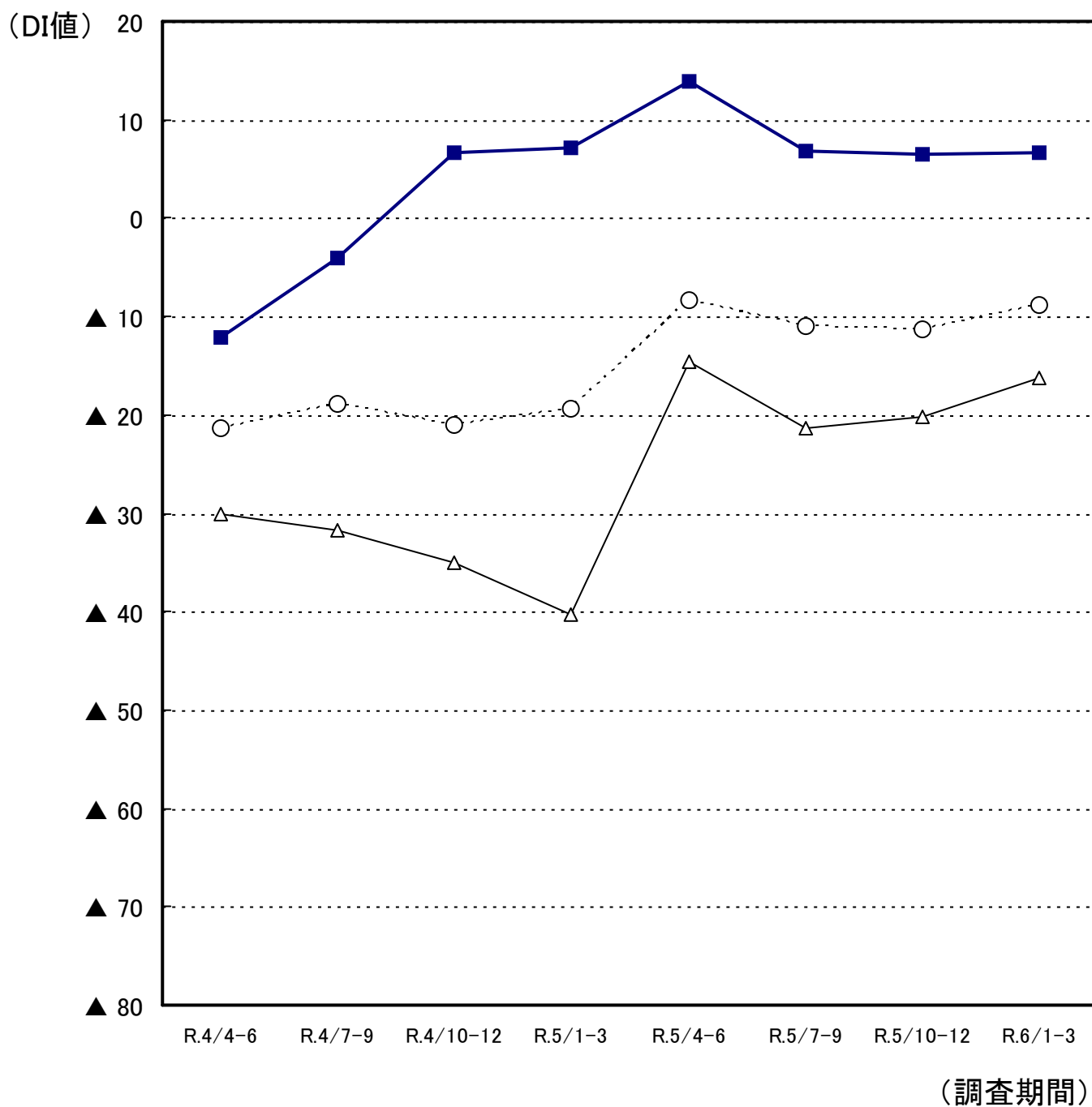
『旅館・ホテル』…「コロナによる影響はかなり落ち着いている」「スポーツ業界の動きは活発になっている。遠征や合宿など人流が動いているので、イベント企画等でチャンスは増えている」とのコメントが寄せられた。今後の見通しとしては「新商品開発に力を入れてお客様に新しいものを提案していきたい」「自社でイベントを開催したり、マネジメント会社の企画物をいれるなど幅を広げていきたい。企業研修なども積極的に営業しながら、スポーツ利用客の穴を埋めていくことになる。立地と環境整備でまだまだチャンスは多くなる」とのコメントが寄せられた。

『その他』…「学生の求人が年々減っているのが富士市特有の問題なのだろうか」「富士川かりがね橋の開通後の渋滞状況が気になっている」「地域の高齢化がますます進んでいることを実感している。反面、若い人は地域コミュニティに対する参加意識が低いように感じる。土地取引において、活力のある地域とそうでない地域とで二極化する可能性がある」「富士川かりがね橋が開通した。たくさん車が流入し、信号の無い交差点の事故が心配される。沿線の地価が上昇するのと地主が手放さないの、流通は停滞するのではと感じる」とのコメントが寄せられた。

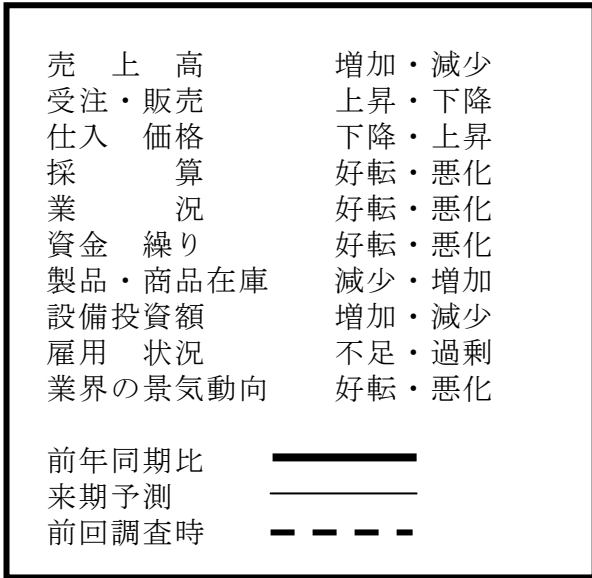
	好転%	不変%	悪化%	今期D I	来期予測
業 況	28.1	56.3	15.6	12.5	下 降
売上高	45.2	35.5	19.4	25.8	下 降
採 算	35.5	45.2	19.4	16.1	下 降

全産業主要調査項目の 前年同期比DI推移状況

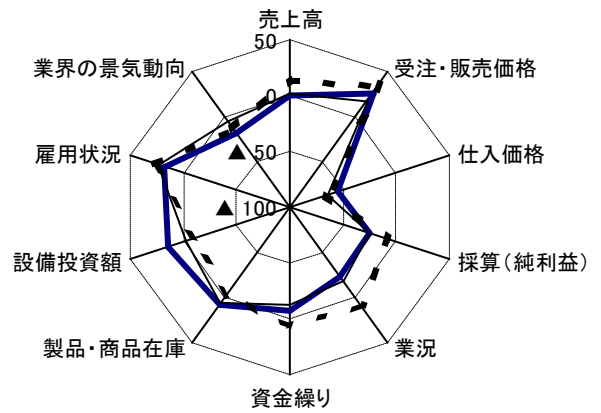
■売上 ○業況 △採算



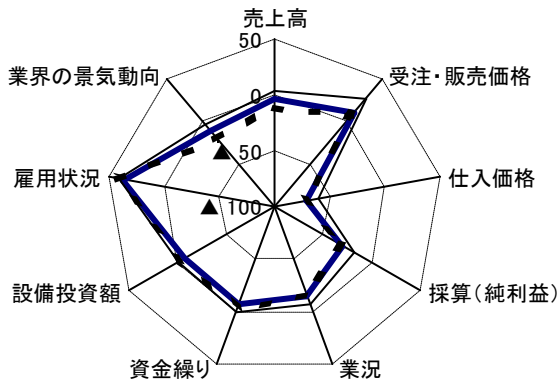
レーダーチャート



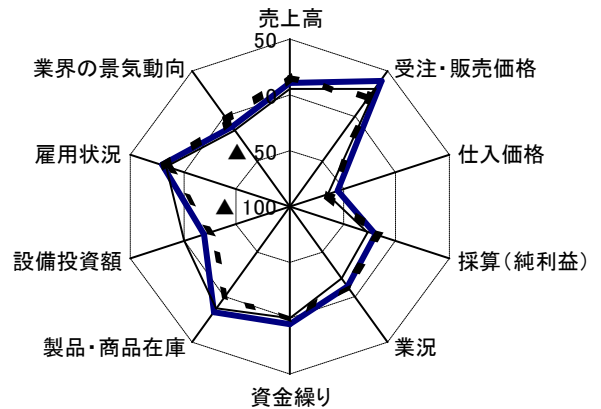
【製造業】



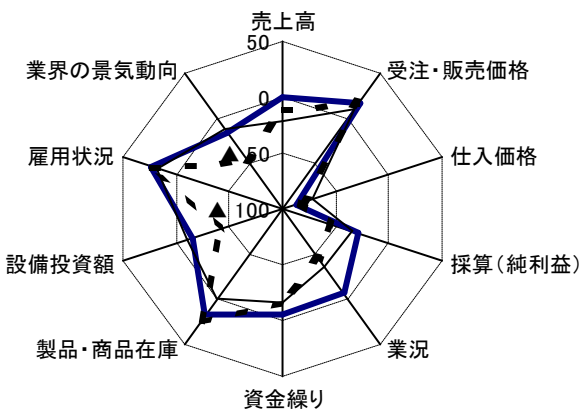
【建設業】



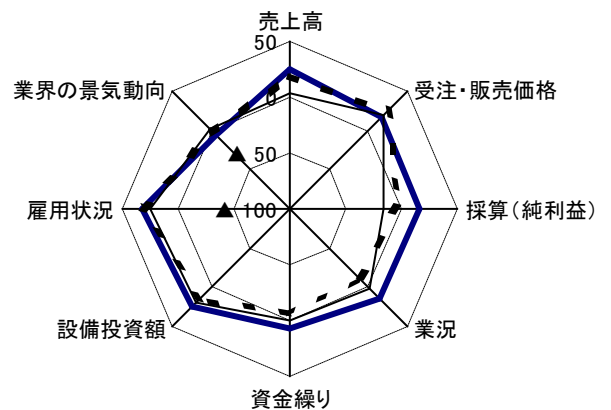
【卸売業】



【小売業】



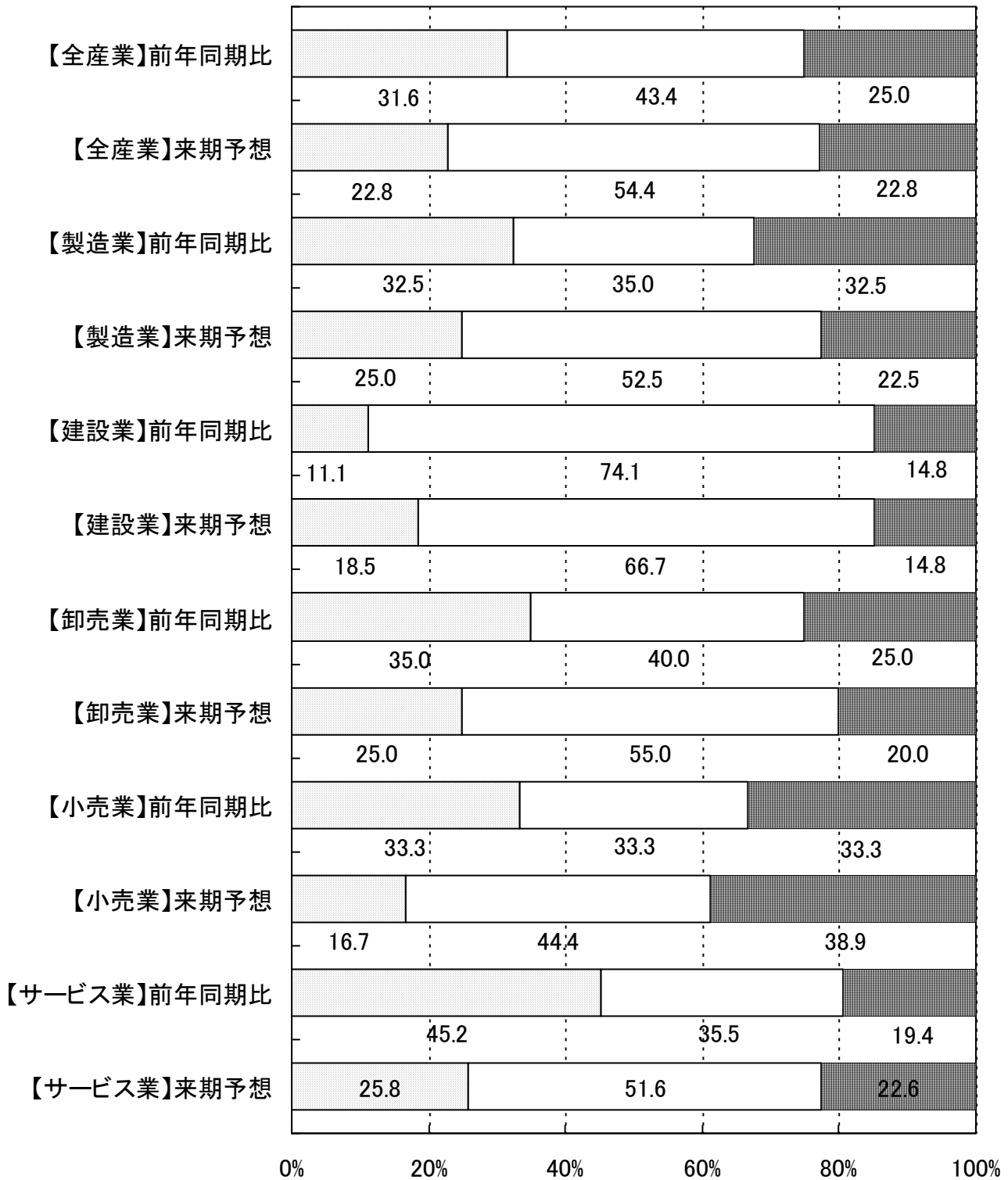
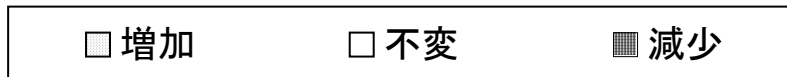
【サービス業】



◇ 経営上の問題点 ◇

産業別	上位回答項目
製造業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇／設備老朽化</p> <p>2 位 販売価格値上げ難／人件費高騰</p> <p>3 位 売上減に伴う利益減</p> <p>その他 人材不足／人員不足</p>
建設業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 販売価格値上げ難／人員不足</p> <p>その他 過当競争／人件費高騰</p>
卸売業	<p>1 位 商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人材不足</p> <p>3 位 設備老朽化</p> <p>その他 過当競争／販売価格値上げ難／その他の経費増大</p>
小売業	<p>1 位 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 売上減に伴う利益減</p> <p>3 位 売上、利益減による資金圧迫／人材不足／人員不足</p> <p>その他 その他の需要の低迷／設備老朽化</p>
サービス業	<p>1 位 販売価格値上げ難／商品、原材料仕入れ価格の上昇</p> <p>2 位 人件費高騰</p> <p>3 位 人材不足</p> <p>その他 過当競争／設備老朽化</p>

売上高の前年同期比と来期予測



最近の静岡県金融経済の動向

公表日（2024年3月12日）

日本銀行静岡支店

（経済面）県内の景気は、緩やかに回復している。最終需要の動向をみると、輸出と公共投資は高水準で推移している。設備投資は製造業を中心に増加している。個人消費は緩やかに回復している。住宅投資は弱含んでいる。こうしたもとで、企業の生産は幾分持ち直している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回っている。

（金融面等）預金は、前年を上回っている。貸出は、前年を下回っている。貸出約定平均金利（総合・ストックベース）は、前月比横ばいとなっている。企業倒産（負債総額10百万円以上）は、概ね感染症拡大前の水準となっている。

1. 需要項目別の動向

※前回からの変化 改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

（1）個人消費（前回からの変化） → 緩やかに回復している。

百貨店・スーパー販売額は、持ち直している。コンビニエンスストア販売額は、緩やかに回復している。ドラッグストア販売額は、増加している。家電販売額は弱めの動きとなっている。新車登録台数・新車販売台数は、持ち直しが一服している。旅館・ホテルの宿泊数は、人手不足等の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

（2）公共投資（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（公共工事請負金額前年比：24/1月65.4% → 24/2月▲26.1%）

（3）設備投資（前回からの変化） → 製造業を中心に増加している。

（短観・設備投資額：22年度計画12.6% → 23年度計画13.4%）

（4）住宅投資（前回からの変化） → 弱含んでいる。

（新設住宅着工戸数前年比：23/12月▲9.9% → 24/1月▲15.3%）

（5）輸出（前回からの変化） → 高水準で推移している。

（輸出額前年比：23/12月▲5.0% → 24/1月5.0% <速報値>）

清水港、田子の浦港、御前崎港、静岡空港の4港合計

2. 生産、雇用・所得、物価の動向

(1) 生産(前回からの変化) → 幾分持ち直している。

(鉱工業生産指数・生産<季節調整済>前月比：23/11月▲1.0%⇒12月1.6%<速報値>)

自動車・同部品は、着実に持ち直している。二輪車・同部品は、横ばい圏内の動きとなっている。食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。はん用・生産用・業務用機械は、増勢が鈍化している。化学は、幾分持ち直している。電気機械は、弱めの動きとなっている。紙・パルプは、持ち直している。楽器は、横ばい圏内の動きとなっている。

(2) 雇用・所得(前回からの変化) → 緩やかに改善している。(↑)

(有効求人倍率 季節調整値：23/12月1.20倍⇒24/1月1.21倍)

(3) 物 価 前年を上回っている。

(消費者物価指数(除く生鮮食品)：前年比23/12月1.6%⇒24/1月1.4%)

3. 企業倒産、金融面の動向

(1) 企業倒産 . . . 概ね感染症拡大前の水準となっている。

(24/2月、負債総額10百万円以上)をみると、倒産件数(9件<前年比：▲52.6%>)
負債総額(9億円<同：▲26.9%>)

(2) 預 金 前年を上回っている。(前年比：23/12月末0.0%⇒24/1月末▲0.1%)

(3) 貸 出 前年を下回っている。(前年比：23/12月末▲0.3%⇒24/1月末▲0.5%)

(4) 貸出約定平均金利 . . . 前月比横ばいとなっている。(総合・ストックベース)

(水準：23/12月1.254%⇒24/1月1.254%)

以 上